

第53回学習会を、平成26年6月6日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第53回の内容

講師 重枝一郎先生

6月に再契約をする実践

- 1 再契約までの実践(初頭効果)
- 2 再契約で学級の維持ルールを完成【6月】
- 3 いじめ防止対策で一体感を出す(開発的生徒指導)
- 4 再契約での考え方



6月に再契約をする実践

1 再契約までの実践(初頭効果)

(1) 教師のリーダーシップ(教示的, 説明的)を發揮する。

やり方を教える, 見せる 係活動で評価(一人一役制) 維持ルールをつくる

(2) リレーションづくりの演習を取り入れると同時に, ルールの必要性(ルールがあるからみんなと仲良くできる)と, **その先にある世界**を示す。

(3) 活動をする中で, **学習ルール, 生活ルール, 対人ルール(3つのルール)**を契約し, どんなことを大切に作る学級なのか, **意味の共有, 感情の共有, 行動の共有(3つの共有)**を図る。

この時期の「荒れ」は目立たない。ルールがなくだらしない雰囲気は人間関係の不安を高める。その不安をごまかそうと同調的な行動をしたり, 排他的なグループを形成したり, 自己中心的に振舞う生徒が定着してしまう。

2 再契約で学級の維持ルールを完成【6月】

(1) ゆるんでなくてもゆるんでいる

- ・契約時のことを想起して, 生徒同士で評価(認め合い活動) 振り返り
- ・ほめてルールを強化できたら一番いい
- ・教師の強い指導は契約を破って, みんなとの感情共有が崩れそうになったときがいい(対教師にならない, 教師の人間性をアピール)

(2) 1学期末に2学期の学級づくりを進める

- ・ゆるみがちな6, 7月をしっかりと生活させる。その姿を評価として2学期につなげる。正当な評価になるように1学期末に2学期のリーダー決めをする。そのために友だちをきちんと見ていくことを意識させる。

【班づくりの方法】

(3) その先にある世界を示す

- ・ 1学期の「荒れ」は目立たない(荒れはじめ)
2学期は問題行動が表面化してくる(トラブルが絶えないようになり,本来生徒に対してしたいことができなくなる)
3学期の「荒れ」ははっきりしている(崩壊)
- ・ 「**維持ルール**」が定着したクラスは「**向上ルール**」(集団,個人がよりよくなる。みんなの思いが出る)に発展し, **誰とでも組める力**(2学期テーマ)の育成につながる。

3 いじめ防止対策で一体感を出す(開発的生徒指導)

(1) GWTを通して, **協力のよさ, 友だちのよさ, 自分のよさ(3つの気付き)**の気付きを促進する。

【ビーイング】 【 をよくする人】

(2) いじめ問題解決のための学年指導

【中学校への道】 【心の手紙】 【いじめのロールプレイ】
【人権学習授業ビデオ】

4 再契約での考え方

(1) 織物モデル

- ・ 縦糸(教師-生徒), 横糸(生徒-生徒)
- ・ 縦糸があってこそ横糸(ほつれる)
- ・ 織物を美しく見せるのはあくまで横糸(柄, 模様)
- ・ できれば縦糸は見えないほうがいい

(2) 「こだわり」が「こわばり」を生むときもある

- ・ こだわり = 気にしなくてもいいことを気にする
- ・ 本来, 気にしなくてはいけないことに気が回らなくなる
- ・ 意味と感情と行動を共有しているか(部活, 行事)

(3) モチベーションだけが全てでない

- ・ 教師の勢力資源がないと伝わらない
- ・ ルーティン化を取り入れる。日々のルーティンには, 心を活性化する力がある。



解説

集会の意義

全校集会や学年集会は、一度にたくさん子ども達に話をする事ができるので、教育的効果が高くなります。教師にとっても、他の教師の語りを聴くことは学びになります。

講師を招いて講演会を行うことも、目的に応じた話を徹底して聴く機会になるので、意義深いものです。

中学校では、生徒指導上の問題が起きたときによく集会を開きます。一部の生徒が起こした問題なのに、説教を聞く嫌な集会となり、後味の悪いものです。できれば、そのような生徒指導上の問題を未然防止できるように、先手で話をするような集会を意図的に打ち込むようにするとよいでしょう。

集会の場で話すときに、より教育的効果を上げる工夫が必要です。話をする教師の迫力や語る内容、そして、子どもに活動させることを組み込むと、印象に強く残るでしょう。

最初は教師のリーダーシップ

「エンカウンター」や「ソーシャルスキル」は手法であって、そのような活動をしたら理想的な集団になるのかというと、「ならないという現実」があります。やはり、教師のリーダーシップが重要なのです。

6月は、「ゆるんでなくてもゆるんでいる」と考えて、教師は「再契約」をする実践を行います。ただし、4月に「契約」していないと、再契約はできません。「初頭効果」とは、第一印象が記憶に残りやすく大事とする心理学用語です。4月に初頭効果をどれだけ利用したかが、6月の再契約を左右します。そのように、教師はストラテジー（戦略）をもって、意図的に集団づくりをします。

学校全体でリンクする

「ルールとリレーション」を同時に育む教育活動を徹底して行います。その両方を両輪ですることの意味があります。それを、学校全体の教育活動とリンクさせるようにします。

学校全体で行うときに、リーダーシップがとれるのは誰なのかがポイントです。その教師が、集団行動訓練を徹底して行います。その一方で、生徒同士の認め合う活動をするのです。

なぜ、そのような教育活動を行うのか、先の世界を示しながら引っ張っていきます。ルールの必要性とその先にある世界を示すのです。

ルールには、学級生活が気持ちよくまわっていくための「維持ルール」と、もっとよくなり一体感が生まれる「向上ルール」があります。子ども達にも「維持ルール」と「向上ルール」があることを示し、それを意識させていきます。

縦系と横系

教師の強い指導は、たての関係です。子ども同士の関係は横です。

織物は、縦系と横系の組合せです。縦系が多いと強くなり、博多織や山笠の締め込みに使われています。縦系が少ないとやわらかくなり、西陣織がそうです。

縦系がないとほつれていきますが、できれば縦系は見えない方がいいのです。

横系には色が付いていて、柄が出ます。クラスの美しさを醸し出す、横の強さを意識させます。

特に、小学校高学年以降、中学生になったら、横の刺激が強くなり影響を受けます。自信をもったり、傷つけられたりするものが「横の関係」です。そのことを語り、子ども達に「横の関係」を意識させていきます。

自他共に認めるリーダー

1学期は「お互いを知る」、2学期は「誰とでも組める力」というように、教師は子ども達と学期毎の人間関係づくりのテーマを共有しておきます。そして、学級委員や班長、生徒会役員などのリーダーについては、その行動をよく見て評価し、選出するように仕組みます。

また、学級目標には必ず、人権的な視点が入っています。学級目標を全員が守れているのかどうか、自分の役割を果たしているのかどうか、振り返るようにします。振り返りを全体で共有することで、世論をつくるのです。

こだわりがこわばりを生む

こだわりが強すぎて、気にしなくてもいいことを気にすると、本来、気にしなくてはならないことに気がまわらなくなります。人の意見を受け入れないとチームにはなれません。そのことを、子ども達に日頃から語っておきます。これは、子どもだけではなく、大人も同じです。同僚とのコミュニケーションの中で、こだわりがこわばりになっていないか、セルフチェックするようにしましょう。

ルーティンには心を活性化する力がある

日々のルーティンの意義を、タイミングを見て語るようにしましょう。モチベーションだけがすべてではなく、ルーティンの中で何か生まれる。スポーツ選手の言葉と重ねて話してもいいでしょう。ルーティンの活動をきちんとさせる意義を子ども達に感じさせるのです。

演習 「いじめのロールプレイング」

生徒にさせるのではなく、教師がしてみせるロールプレイです。見るだけでも、実感できるロールプレイで、九州大学教授の増田先生が開発されました。「いじめられ役」として1人、「いじめる役」として3人を教師の中から人選します。「いじめられ役」の人の前に、3人並んで立ちます。その3人の後ろに「観衆」として、6人立ちます。席についている人たちは「傍観者」という設定で「いじめの4層構造」をつくります。言葉でいじめるのは禁止です。目と表情だけでいじめるロールプレイをします。その後で、それぞれにコメントを言ってもらいます。

「いじめられ役」のコメントは、「怖くて目を合わせられませんでした。悲しい気持ちになりました。後ろにいる人たちが怖かったです」という内容でした。「いじめ役」のコメントは、「快感がありました。スッキリしました」という内容でした。「傍観者」のコメントは、「自分は関係ないから安心感があった」という内容でした。

次に、「いじめ役」の後ろの6人のうち3人が、「いじめられ役」の後ろに立ちます。そして、最初と同じように目と表情でいじめるロールプレイをしますが、明らかに変化があります。「いじめられ役」のコメントは、「あまり、怖くなくなりました。目を見ることができました。人が後ろにいると安心し、心強く思いました。「いじめ役」のコメントは、「後ろに人がいるから視線が分散され、さっきよりは気持ちが弱くなっていました。後ろの人の目線が気になりました」でした。

最後に、「いじめ役」の後ろの3人にも、「いじめられ役」の後ろに移動してもらいます。そして、同じロールプレイをしますが、「いじめ役」の3人の先生方の表情が最初とはまったく違っていました。心細そうな表情です。結局、「いじめ役」がどんどん苦しくなるロールプレイになりました。

このロールプレイは、「観衆・傍観者がいじめられている人の味方になり、それが増えるといじめが止まる」ことを実感できます。ちょっとした自分の行動が影響することを理解させることは、いじめ防止につながります。笑顔の裏を表情から察知して、全員の責任を自覚して「いじめをなくそう」という空気を生むために、学級の実態に応じて実践してください。



ビーイングシート例



本日のキーワード

「維持ルール」「向上ルール」と発展させる
ゆるんでなくてもゆるんでいる
2学期は「誰とでも組める力」

学習会に参加された先生方の感想

(参加人数 42名)

- ・「6月の再契約」が大切ということは、今までも「Teacher's Teacher」や重枝先生のお話で頭に入っていたつもりでした。でも、今、高学年(小5)を担当し、運動会後の6月にしっかりクラスの目標、あり方について振り返り、再契約をきちんとしていくことの大切さを改めて感じています。来週月曜日1校時、学活がんばります!
 - ・織物の語りが自分の引き出しに入りました。子ども達に話し、伝わった後の表情や行動がどのように変化するかがすごく楽しみです。4月に契約を結んでいるので、6月の再契約を月曜日から始めたいと思います。学級の中で自分の存在感があって居心地がいい。そんな学級を目指しています。ただ、そのためには、自分の言いたいことが言え、それを受け入れてもらえる関係性がないと、本当の意味での居心地のよさは得られません。6月、7月にもう一度、ルールを守ること、伝えること、受け入れること、感じることを振り返らせ、そのような心を引き出せるように工夫していきます。
 - ・お久しぶりです。新しい学校に赴任し、中学2年生を担当し、まさに「6月のゆるみ」現象が起こってきています。今日のお話を受けて、再契約をしていこうというエネルギーをいただきました。4月の実践で、子ども達に「契約」という認識があるかどうか、自信はありませんが、とにかくポジティブに考えて一歩、歩み出そうと思いました。
 - ・誰がどうのこうのと説く前の、かかわる皆の意識づけ。ピンポイントの改良を狙うときこそ、トータルでの波動。木を見て森を見ていない・・・こんな時こそ全体を見渡して、ムーブメントとして周囲から働きかける。そのためにも、部署(チーム)との契約、約束が大切だと思います。いろいろなチカラを作用させて、自らの気づきや感情の変化を生み出す!!だからこそ、ルール(フレーム)が大切だ!「風土会」に参加するとやはり、仕事や家庭にも役立ちます。
- (小学校の先生、中学校の先生、新しい学校に赴任した先生、そして、先生ではないお仕事をされている方など、さまざまな場で実践しているみなさんのエネルギー補給になっているのがうれしいです!)
- ・伝えたいことをストレートに言うだけでは、なかなか伝わらないと感じる毎日です。語れるだけの引き出しを豊かにしなければと、いつも思います。「いじめのロールプレイ」など実践してみたいのですが、自分に力がないと難しいと思います。何かひとつでも語れることを持ち帰って、使わせていただきたいと思います。
 - ・6月の重要性を強く感じました。契約をしてこそその再契約であるということだったのですが、とにかく早く実践したい!!という気持ちでいっぱいです。何のためのエンカウンターかということも、改めて理解できました。授業の中や子ども達と関わる場面で、どんどん実践していきたいと思いました。
 - ・4月の初頭効果の大切さや、再契約のやり方をわかりやすく説明して頂き、頭がスッキリしました。「いじめ」について「心の手紙」と「いじめのロールプレイ」この二つは、絶対、学校に持ち帰って実践したいです。やる気が出ました。
 - ・はじめて参加しました。以前、重枝先生には学校研修の講師として来て頂きました。その時のお話は、心にスッと入り、自分自身のこれまでを振り返り反省するような、とても心に残るものでした。昨年度はクラス経営で悩み、自信をなくすこともあったので、昨年度の子ども達に感謝し、恩返しをしたいと思っています。また、次回も参加したいと思っています。

(目の前の子ども達に向かうために、学び、力をつけ、実践し、振り返り、また実践!!やり甲斐があります)